

令和2年度 第2回関市立図書館協議会 会議録

日時 令和2年12月16日（水曜日）午後1時30分～

場所 関市役所 6階 6-2会議室

◆出席者

（図書館協議会委員）

樋口 緑、波多野壽美、平川貴久、河合裕子、太田尚文、熊崎好子 以上6名

※欠席者3名 藤根 隆、藤井和敏、船戸真由美

（事務局）

島田美佳生涯学習課長、深川理代

（図書館）

塚原隆文館長、亀山並枝館長補佐

◆傍聴者 なし

◇開会

◇会長あいさつ

今年度はコロナのために私たちの生活においても様々な影響がありました。コロナがなかなか収まらず厳しい状況が続いている中で、出口が見えない苦しさもありますが、飲食店のみならず、病院、学校、公共機関などいろんな業種の方が、コロナの感染防止の取組みをしながらそれぞれが努力をしていってらっしゃいます。関市の図書館でも目に見えない形の努力を日々続けていってらっしゃるのではないかと想像しているところです。継続運営ができているのは、その努力の賜物ではないかと思います。そんな中で、先月の中日新聞の記事で「まちの図書館が消える」という社説を紹介させていただきます。全国屈指の貸出数を誇っていた愛知県常滑市の図書館が老朽化して新しく建て替えるかどうかという議論になったときに、財政不足からやむなく閉館するという事になったという事が取り上げられています。新図書館の建設目途が立たないということで、今ある蔵書を分館に配って処分するという話が進行しているようです。その記事の最後に小学校6年生の子がこの図書館が開館したときに寄せた寄稿の抜粋が載っていました。「楽しい市立図書館」という題名で、「私は物語の世界が好きです。1階は切り絵などが貼ってあります。2階は中学生や高校生が勉強しています。調べることがあると私は2階で調べます。いろいろためになる本がたくさんありました。もっと図書館の本を利用して、分からないことを減らそうと思います。」といった内容です。その社説は、「時代が変わっても、

知に触れようと思ったときすぐに足を運べる、そんな存在を消えるままにしていとは思わない。」と締めくくられています。私もまったく同感です。このコロナ禍においておこもり需要が増え、その流れで図書館の活用が進んでいくと思います。有難いことに、関市の図書館はリニューアルの話があり、そういったニーズにも応えていけると思っています。この図書館協議会が何らかの形でお役に立てたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◇図書館長あいさつ

コロナでいろんな事がストップしています。図書館では返却された本を全て消毒して棚に戻したり、パソコンの消毒を行ったりしています。小学生の図書館見学も延期となっておりますが、2学期に入り実施され、図書館に子どもたちが来るようになり、徐々に賑やかになっていきます。またブックトークや読み聞かせなども、例年より少ないですが少しずつ開始できています。9月からは司書による館内での読み聞かせも行っております。予約制で、第3日曜日の閉館後に和室で開催しています。12月からは今年度初めての講座も開催しました。皆さんに後押しをしていただき、今後も感染防止を図りながらできる限り実施できるように調整を行っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◇生涯学習課長あいさつ

コロナの中でも、いきいきフェスタなどの行事を終えることができました。次は成人式ですが、なんとか開催できるよう準備を進めているところです。今日の議題である子どもの読書活動推進計画のアンケートの中で、5歳児の保護者の方の約70%の方が週1回読み聞かせをしているという回答がありました。子どもが喜んでくれるからという理由が半数くらいという形で、親子の読み聞かせがあるというのは、図書館や保育園での読み聞かせ、学校での朝読書などの取組みが繋がっている結果だと思います。すべての活動がリンクしているということを感じています。今日の会議のなかでも、皆さんからいろんな提案をいただいていた計画にしたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

◇議題

・樋口会長による議事進行

①「関市子どもの読書活動推進計画」に関するアンケート調査結果報告

②「関市子どもの読書活動推進計画」改定骨子について

・事務局より資料に基づいて説明

◇質疑応答

【委員】骨子の基本方針1の施策4については何を想定していますか。

【事務局】例えば、ふれあいセンターなどのふれあい文庫やそこでの活動などを盛り込みたいと思っております。

【委員】ふれまちの活動などもあるかと思いますが、なかなか活動内容が見えてきていないと思います。そこをどうやって盛り上げるかが課題だと感じます。

【事務局】アンケートの中で、図書館に行かない理由として図書館が遠いからという物理的距離を挙げた回答がけっこうありました。そういった事を踏まえると、身近な場所という観点が外せないと思います。そのための取組みとして地域における推進という施策を盛り込みたいと思っております。

【館長】ふれあいセンターの本は定期的に図書館が本の入れ替えを行っています。そのタイミングで新しい本が入ったPRなどをしてもらえるような工夫が必要だと思います。

【課長】ふれあいセンターで本が置いてあるのは主に児童室だと思います。児童室が活用されることにより、利用度や認知度が上がっていくと思います。

【委員】児童室の利用者の方は本を手にとることが多いです。職員の方が利用者さんのニーズを聞いて図書館へ要望を出しているということを知りました。とても良いことだと思います。利用者さんもここには自分たちに必要な本がたくさんあると喜んでいらっしゃいました。そういった繋がりが大切だと思います。

【館長】週に1回は司書がふれあいセンターを回っていますので、その際に司書と職員さんで情報交換ができるとよいと思っております。

【委員】家庭で本を親しんでいると本が好きな割合が高いという話がありました。確かにそうだと思いますが、親御さんが読み聞かせなどができないという家庭もあると思いますので、その辺の配慮も必要だと思います。

【委員】ブックスタートや保育園・幼稚園で読み聞かせを受けて、幼児期までは体制ができていると思います。しかし、読み聞かせから自分の好きな本に出会い読書を好きになるという移行がなかなか難しいと感じています。子どもへの読み聞かせはできても、いい本に出合わせてあげて読書への橋渡しをするのは周りの大人であり図書館の蔵書だと思いますが、そこがなかなかできていないというのがアンケートにも表れていると思います。

【委員】ブックスタートで、親さんから「読み聞かせをして、その効果はなんなのか」と聞かれる事がありますが、目に見える効果を求めるような事ではないのでなかなか難しいです。武儀の地域委員会では広報で新しい本のPRをけっこうやっています。それぞれのふれまちの広報でもPRできるとよいと思っておりますし、本館や県図書館の本が分館でも返せるといった利用案内なんかも、もっとお知らせできるとよいと思っております。

【委員】読書というのは単に国語力の向上だけではなく、未知の事を追体験できる喜びや感動など子どもたちに様々な経験を与えてくれるものだと思います。そういったことを子どもたちに伝えていけると良いと思います。

◇閉会（生涯学習課長あいさつ）

それぞれのお立場で具体的な意見をいただきましたと思います。この意見を基に、計画の肉付けをしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。